

家庭の声を、支援に変える育児OS

HUG NEST

SHUNZO OKADA

顧客と課題の整理・検証、ソリューションの立案までを一気通貫で支援

企業名	Means Lab
代表者	岡田 駿三
本社所在地	創業前のためN/A
創業年	同上
従業員数	同上
HP	同上

日記をAIで分析、親の“想い・悩み”を可視化



非公開型の投稿

投稿内容分析



ユーザーマッチング



サービス・支援レコメンド

<ビジョン・事業概要>

- 「孤育てによる悲劇をなくす」というビジョンのもと、子を持つ親が抱える育児に関する悩みの解決を目指し、次世代型AI子育て支援プラットフォームを開発している。

<事業フェーズ・目指している状態>

- ユーザーとなり得る顧客と顧客が抱える課題を整理し、ソリューションを検討しているフェーズ。
- 顧客が抱える課題をインタビューにより可視化し、また、既存のプラットフォームが持つ機能を棚卸したうえで、「独自の価値提案」の方向性を見出し、プロダクト開発に繋げることを目指す。

相談内容・抱えていた課題

C-CAPによる支援ポイント

成果

<顧客と課題の整理と検証>

- ◆ ターゲットとなり得る顧客と顧客が抱える課題について、一連のプロセスを踏むことにより解像度を上げたい。



- 子どもの月齢・年齢を区切り、想定課題を網羅的に洗い出し、ロジックツリーにて構造化して整理した。
- 課題の特に大きい属性を体系化して整理し、ターゲットとする顧客を決定した。
- 課題仮説検証のインタビュー項目の設計を行った。



- ✓ 「情報過多」「相談先の不足」を優先軸とし、その中でボリュームゾーンである4つの課題解決を目指す方針を決定した。
- ✓ 3歳以下の子を持つシングルマザー、共働き世帯（ワンオペ）を第1ターゲットとすることに決定した。

<ソリューションの立案>

- ◆ 既に市場に存在するサービス・プラットフォームの機能を棚卸し、プロダクト開発の参考にしたい。



- 比較する国内既存サービスを網羅的に洗い出し、保有機能を整理し、課題仮説との紐づけを行った。
- 海外で浸透しているサービスの棚卸しも併せて実施した。



- ✓ 既存サービスは「情報量」「網羅性」は担保されているが、判断自体はユーザーが行う点に着目し、「AIレコメンド機能」により判断そのものを代行する点を独自の価値提案として決定した。

<BtoGビジネス展開に向けた土台整理>

- ◆ マネタイズの選択肢の1つであり、「BtoG」展開の可能性を探りたい。



- 想定顧客に対するインタビューにより行政情報に関する課題を整理し、千葉市の子育て関連部署との意見交換を実施した。



- ✓ ユーザーは、知りたい情報をタイムリーに得ることができない点に課題を感じていることが確認でき、行政とユーザーの橋渡しをする機能を持たせることを決定した。

【採択企業様の声】

フェーズに合わせた伴奏支援に加え、メンターの方が手を動かしてくださったことが、リソースの限られた私にはありがたかったです。協業先や初期ユーザー候補などのネットワークも構築でき、今後進めていく上での土台が出来ました。